

科目名	初等理科教育		
担当教員名	宮川 保之、岩田 泉、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教育課程及び指導法に関する科目 (必修) であり、2 年次に履修 (選択) した「理科」の発展である。

科目の概要

理科教育の歴史や学習指導要領理科の変遷、理科教育の目標などについての理解を通して、理科教育や授業の在り方についての理解を深め、理科指導法の知識や技能を身に付けることができるようにすることを目的とする。理科の指導内容・学習内容については、2 年次に履修 (選択) 「理科」と関連しており、理科の授業における指導方法に関わることに重点を置いて観察・実験を中心に行う。また、新しい理科教育では、学ぶことの意義や有用性の実感、科学への関心を高める観点から、実社会、実生活と関連を重視する内容の充実が強調されていることを踏まえ、理科を教えるとはどういうことなのかを体験を通して学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・理科の観察・実験を核とし、「物質 (粒子)」、「エネルギー」、「生命」、「地球」などについての基礎的な概念や理論とを結び付けて学修を深め、理科指導に活かすことができる。
- ・理科の授業を通して、人間形成や社会生活に不可欠な科学的な思考力、科学的な見方考え方を児童に身に付けさせる方法を習得する。

内容

小学校学習指導要領及び解説 (理科) の内容と小学校理科の教科書に取上げられている観察・実験をグループで行う。本授業は、模擬授業前までに、教材等を準備したり、予備実験を行ったりすることで成り立ち、学生の効果的な学びとなる。よって、グループを構成する一人一人が積極的に参画することが前提となる。グループ毎に一つの観察・実験を担当し、教師役を担う。他のグループのメンバーは児童役となって観察・実験を行う。

1	ガイダンス	小学校における理科観察・実験の概要 (指導要領、教科書等の分析)
2	観察・実験のテーマごとの担当グループを決定	単元のねらいや内容の理解を深める
3	講義 ; 理科教育の目的と観察・実験の意義	観察・実験を行う上での留意事項の確認
4	実験の模擬授業	「生物分野」
5	実験の模擬授業	「生物分野」
6	実験の模擬授業	「化学分野」
7	実験の模擬授業	「化学分野」
8	実験の模擬授業	「化学分野」
9	実験の模擬授業	「物理分野」
10	実験の模擬授業	「物理分野」
11	実験の模擬授業	「物理分野」
12	実験の模擬授業	「地学分野」
13	実験の模擬授業	「地学分野」
14	実験の模擬授業	「環境」

評価

実験毎のワークシート50%，担当した模擬授業のレポート20%，筆記試験30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業案作成・予備実験・ワークシート作成から授業を構成する。

【事後学修】ワークシート記入・レポート作成・お互いの授業から授業の意識を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】【参考図書】文部科学省『学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 理科編』

小学校理科の教科書および指導書（図書館、リメダル教育センター、教職課程センターに常備）

科目名	初等理科教育		
担当教員名	宮川 保之、岩田 泉、井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教育課程及び指導法に関する科目（必修）であり、2年次に履修（選択）した「理科」の発展である。

科目の概要

理科教育の歴史や学習指導要領理科の変遷、理科教育の目標などについての理解を通して、理科教育や授業の在り方についての理解を深め、理科指導法の知識や技能を身に付けることができるようにすることを目的とする。理科の指導内容・学習内容については、2年次に履修（選択）「理科」と関連しており、理科の授業における指導方法に関わることに重点を置いて観察・実験を中心に行う。また、新しい理科教育では、学ぶことの意義や有用性の実感、科学への関心を高める観点から、実社会、実生活と関連を重視する内容の充実が強調されていることを踏まえ、理科を教えるとはどういうことなのかを体験を通して学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

- ・理科の観察・実験を核とし、「物質（粒子）」「エネルギー」「生命」「地球」などについての基礎的な概念や理論とを結び付けて学修を深め、理科指導に活かすことができる。
- ・理科の授業を通して、人間形成や社会生活に不可欠な科学的な思考力、科学的な見方考え方を児童に身に付けさせる方法を習得する

内容

小学校学習指導要領及び解説（理科）の内容と小学校理科の教科書に取上げられている観察・実験をグループで行う。本授業は、模擬授業前までに、教材等を準備したり、予備実験を行ったりすることで成り立ち、学生の効果的な学びとなる。よって、グループを構成する一人一人が積極的に参画することが前提となる。グループ毎に一つの観察・実験を担当し、教師役を担う。他のグループのメンバーは児童役となって観察・実験を行う。

1	ガイダンス	小学校における理科観察・実験の概要（指導要領、教科書等の分析）
2	観察・実験のテーマごとの担当グループを決定	単元のねらいや内容の理解を深める
3	講義；理科教育の目的と観察・実験の意義	観察・実験を行う上での留意事項の確認
4	実験の模擬授業	「生物分野」
5	実験の模擬授業	「生物分野」
6	実験の模擬授業	「化学分野」
7	実験の模擬授業	「化学分野」
8	実験の模擬授業	「化学分野」
9	実験の模擬授業	「物理分野」
10	実験の模擬授業	「物理分野」
11	実験の模擬授業	「物理分野」
12	実験の模擬授業	「地学分野」
13	実験の模擬授業	「地学分野」
14	実験の模擬授業	「環境」

評価

実験毎のワークシート50%，担当した模擬授業のレポート20%，筆記試験30%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習指導要領等や小学校理科の教科書等を用いて、授業を構想し、学習指導案の作成・予備実験・ワークシート作成などを行う。

【事後学修】学習指導案の内容や模擬授業の成果と課題を整理し、次時の授業に活かす。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各回で資料を提示する。

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省『学習指導要領』『小学校学習指導要領解説 理科編』

小学校理科の教科書および指導書（図書館、リメダル教育センター、教職課程センターに常備）

科目名	初等音楽科教育		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童期における音楽教育の必要性・大切さを理解した上で、初等教育者に必要な音楽科の教育内容・教材・指導法などについて学ぶことを目的とする。

科目の概要

小学校学習指導要解を基盤として、特に音楽の歴史・理論・表現を中心に音楽担当教育者として必要な基礎知識の修得と、具体的な指導の場面で実践的な力を身につける。

学修目標

それらの知識を生かして、小学校における音楽科の授業づくりに関する基本的な知識・内容および指導技術について講義や演習を通して理解・学習することをねらいとし、教育の指導力をたかめることを目指す。

内容

1	音楽教育とは？
2	小学校学習指導要領 音楽について
3	音楽の歴史
4	1年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (譜表・派生音について)
5	1年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 (和音について)
6	2年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (音程について)
7	2年生の音楽 楽器・鑑賞指導 音楽理論 (調について)
8	3年生の音楽 歌唱指導 音楽理論 (発想記号について)
9	3年生の音楽 楽器 (リコーダー)
10	4年生・5年生の音楽 歌唱指導
11	6年生の音楽 歌唱指導
12	中学年の合奏指導
13	高学年の合奏指導
14	中・高学年の鑑賞指導
15	まとめ

評価

毎回の課題 (40点)、試験 (50点)、通常の授業態度 (10点) により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

授業外学習

- 【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の購読。小学校教科書の指定箇所のプレゼン活動の準備。
- 【事後学修】授業ノートおよび配布資料の整理。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト] 小学校「音楽」の1年生～6年生の教科書 教育芸術出版

[参考図書] 「音楽科指導書 音楽編」（文部科学省） 「初等科音楽教育法」（音楽の友社）

科目名	初等社会科教育		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、小学校教諭免許取得のための教科指導法の1つで、選択必修に位置づけられている。

教科としてどのような目標を持ち、社会科の各学年の内容をどのような順にどのような指導方法によって教科指導を進めるのか、その指導法について学修する科目である。

科目の概要

小学校社会科の教材を取り上げ、学生自らが探究し、それらの内容をどのようなねらいを持ち、どのように児童に学習させていくか、教材を作成し、教材の在り方・資料の取り扱い等について検討し深める。

学修目標

社会科の目標、各学年の目標・内容・取り扱い等についての理解を深め、授業実践に取り組める 実践力を養う。

内容	
1	ガイダンス
2	小学校3学年4学年5学年6学年の社会科の目標・内容・年間指導計画
3	小学校3学年4学年の社会科の内容 私たちのまち・くらしと人々の仕事・安全なくらしを守る
4	小学校3学年4学年の社会科の内容 住みよいくらしを支える・郷土の人々の願い・私達の埼玉
5	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と食料生産 私たちの生活と工業生産
6	小学校5学年の社会科の内容 私たちの生活と情報 私たちの国土と環境
7	小学校6学年の社会科の内容 日本の歴史
8	小学校6学年の社会科の内容 わたしたちの生活と政治 世界の中の日本
9	小学校社会科の小単元の学習指導案の立て方
10	小学校社会科の1時間の授業のあり方 資料の作り方・活用の仕方 学習評価の在り方
11	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(1)
12	小学校社会科の小単元の1時間の指導案づくり・活用する資料づくり(2)
13	社会科の模擬授業の実際(1)
14	社会科の模擬授業の実際(2)
15	社会科の模擬授業の実際(3) ・まとめ

評価

課題レポート・指導計画・指導案などの提出物60点 模擬授業等への取り組み40点、とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各時間に学修する、社会科の内容について、事前に調べ確認しておく。毎時1時間

【事後学修】学習したことを毎時間まとめる。毎時後30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

- ・小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍
- ・小学校学習指導要領解説（社会編）平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社
- ・児童用教科書
- ・教科書の教師用研究物

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校教諭の免許取得に必要な必修科目である。家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達の特徴を理解し、児童の生活的な自立性や家庭生活に対する実践的な態度を培うための基礎的な知識や指導技術を学修する。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解して、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

学修目標

小学校学習指導要領を基本として家庭科の目標、内容、指導上の重要な留意点、児童の生活実態や発達課題について意識して 学ぶことにより、以下のような力を身に付けることができる。

- ・児童の生活実態を踏まえた効果的な教科経営法と指導方法とを身に付けることができる。
- ・指導に必要な基礎的技能を用いた簡単な調理とミシンを用いた製作とを行うことにより、活動や作業の指導に自信を持つことができる。
- ・学習指導案を作成して模擬授業を行い、仲間との意見交換や教師からの助言を踏まえた省察や改善を行うことにより、指導力の向上を図ることが出来る。

内容

- 1 本授業のガイダンス
授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート
- 2 家庭科の学びについて理解する
家庭科の学びとは何か - 家庭科の目標と内容、教科の独自性、小中高の関連の理解
学習指導要領を読み解く (グループによる調べ活動と発表ならびに教師からの補足解説)
- 3 指導法の研究
家庭科における安全指導と安全管理 - 事例研究と実習 -
学習指導計画の作成の仕方 - 解説と演習 -
家庭科の授業づくり 1 - 授業目標と評価・指導案の作り方演習 -
- 4 指導法の実際
調理実習 (米飯と味噌汁の調理)
～ 模擬授業
- 5 実習指導の実際
ミシン縫いの基礎を実習し、指導上の留意点について話し合う。
ミシンと手縫いで小物を縫い、児童の視点で作品や授業の展開を検討する。
学習のまとめ これからの家族・家庭生活を展望した指導の在り方について話し合う。

評価

発表活動30点、レポート30点、作品や提出課題30点、授業ポートフォリオの記録10点で60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は、実習を伴った課題を出題し、レポート提出により最終評定を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。授業で示された課題図書を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不味堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	初等家庭科教育		
担当教員名	勝田 映子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭の免許取得に必要な必修科目である。家庭科の授業づくりの基本を学ぶとともに、児童期の発達の特徴を理解し、児童の生活的な自立性や家庭生活に対する実践的な態度を培うための基礎的な知識や指導技術を学修する。

科目の概要

小学校学習指導要領を基盤として、家庭科の目標や内容、指導上の留意点を学ぶとともに、児童の生活実態や発達課題を理解して、安全で効果的な家庭科の授業づくりの基本を学ぶ。グループ活動を中心とし、探究活動や実習、実践的体験的な活動、模擬授業などを通して学習指導の実際を実践的に学ぶ。

学修目標

小学校学習指導要領を基本とし、家庭科の目標、内容、指導上の重要な留意点、並びに児童の生活実態や発達課題について意識して学修することにより、以下の力が身に付く。

- ・児童の生活実態を踏まえた効果的な教科経営法と指導方法とを習得することができる。
- ・小学校家庭科の指導に必要な技能を用いて簡単な調理とミシンを用いた製作を行うことにより、活動 や作業の指導に自信を持つことができる。
- ・家庭科の指導案を作成し、模擬授業を行い、仲間との討論や教師の助言を踏まえて省察し改善することにより、確かな実践的指導力を身に付けることができる。

内容

1 本授業のガイダンス

授業計画、準備するもの、評価など 生活アンケート

2 家庭科の学びについて理解する

家庭科の学びとは何か - 家庭科の目標と内容、教科の独自性、小中高の関連の理解

学習指導要領を読み解く（グループによる調べ活動と発表ならびに教師からの補足解説）

3 指導法の研究

家庭科における安全指導と安全管理 - 事例研究と実習 -

学習指導計画の作成の仕方 - 解説と演習 -

家庭科の授業づくり 1 - 授業目標と評価・指導案の作り方演習 -

4 指導法の実際

調理実習（米飯と味噌汁の調理）

～ 模擬授業

5 実習指導の実際

ミシン縫いの基礎を実習し、指導上の留意点について話し合う。

ミシンと手縫いで小物を縫い、児童の視点で作品や授業の展開を検討する。

学習のまとめ これからの家族・家庭生活を展望した指導の在り方について話し合う。

評価

発表活動30点、レポート30点、作品や提出課題30点、授業ポートフォリオの記録10点で60点以上を合格とする。
合格点に満たない場合は、実習を伴った課題を出題し、レポート提出により最終評定を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書や学習指導要領の内容を自分の言葉で説明できるようにまとめる。課題や模擬授業の準備をする。

【事後学修】講義内容について再度、教科書や学習指導要領を読み、確認する。さまざまな指導案を集めたり、小学校の研究授業や公開授業に出かける。授業で示された課題図書を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校家庭科教科書「新しい家庭5・6」』 東京書籍、『小学校学習指導要領解説家庭編』 文部科学省

【推薦書】『子どものよさを活かす家庭科学習-出会う・かかわる・つくり出す』 勝田映子著 初等教育研究会・不昧堂出版、『小学校学習指導要領の解説と展開家庭編』 安彦忠彦監修・内野紀子編著 教育出版、『できますか？教えられますか？家庭科の基本』 流田直監修・亀井祐子・田中京子・勝田映子著 学研教育みらい【参考図書】『作る手が子どもたちを輝かす』 お茶の水女子大学附属学校家庭科研究会 地域教材社 その他授業内で紹介する。

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、増田 吉史、日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

算数科の授業構成を通し授業研究をすすめる。児童の実態と教材の内容の分析、指導法の工夫等で優れた実践を元に、指導計画立案や学習指導案作成を行う。

科目の概要

「算数」「初等算数科教育」「教材研究（算数）」の上に立ち、算数科の単元指導計画立案や、習熟度熱少人数指導体制の現状理解、学習の主体性を尊重する指導のあり方について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

小学校6年間を通した実践と理論の関係を理解し、略案だけでなく、本案を作成する。

内容

指導計画や指導案を作成し、模擬授業を行う

基礎基本を確実に身につける指導のあり方

個に応じた指導のあり方

学力のとらえ方と評価の関係

一人一人の学力を向上させる指導のあり方

校内の指導体制と保護者の意識

学校間の研究協力と授業力アップの方策

問題解決指導のあり方

補充的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導と教材開発のあり方

発展的な学習の指導の実際

T Tのための指導計画の実際

コース選択とコースガイダンスの実際

学習カードと評価を生かした指導の実際

評価のあり方と工夫の実際

振り返りとまとめ

また、教育実習での本案・略案の作り方を予め学び、作成し、模擬授業をする。

評価

指導計画、学習指導案、模擬授業（80%）、試験（20%）で総合的に評価する

授業外学習

【事前予習】指導計画や指導案を実際に作成する

【事後学修】模擬授業後に模擬研究協議会を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説(算数編) 東洋館出版

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び 理論実践編 (明治図書)

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭免許取得のための選択科目の一つである。ここでは、「国語」について説明する。具体的な学習指導案の作成，模擬授業の実施等により，国語科の授業について実践的に学ぶ。

科目の概要

少人数で授業を展開する。学習指導要領と国語科の基本的な指導法の理解を基本として，教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施，学習評価，映像による授業の振り返りという過程をたどって学修する。また，児童に取り組みせる言語活動について，学生自身が体験して理解を深めるようにする。

学修目標（＝到達目標）

国語科の指導内容・指導方法に関心を持ち，よりよい授業を構想しようとする。

国語科の指導と評価の在り方について理解を深め，自分なりの考えをもつ。

国語科の指導についての基本的な知識と技能を身に付ける。

内容

小学校の授業づくりについて，教材研究に加え，年間指導計画や学習指導案の作成，授業の導入から展開の仕方，子供への接し方等を実践的・総合的に学ぶことを意図した科目である。

年間30週の講義について，基本的に次のように進めていく。

前期	第1週	ガイダンス～授業ビデオの視聴～
	第2週	今，求められる国語科の授業の構想
	第3週	年間指導計画の作成と学習指導案の在り方
	第4～6週	教材研究と「読むこと」の授業づくり（文学的な文章）
	第7週	板書と板書計画
	第8～10週	模擬授業～「読むこと」（文学的な文章）
	第11週	模擬授業の振り返り
	第12～13週	「話すこと・聞くこと」の言語活動と授業づくり
	第14週	国語科における学習評価
	第15週	漢字に関する指導

後期	第1週	ガイダンス～授業ビデオの視聴～
	第2～4週	「書くこと」の言語活動と授業づくり
	第5～7週	教材研究と「読むこと」の授業づくり（説明的な文章）
	第8週	教材・教具と板書

- 第9～12週 模擬授業～「読むこと」（説明的な文章）
第13週 模擬授業の振り返り
第14週 「伝統的な言語文化に関する事項」の指導と評価
第15週 「書写」に関する指導と評価

評価

小レポートや作成物50%，模擬授業や発表活動への取組の様子50%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】模擬授業の準備（学習指導案や資料の作成などが必要）。
- 【事後学修】講義の後に，小レポートの提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）
- 【推薦書】授業の中で紹介する。
- 【参考図書】授業の中で紹介する。

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、廣坂 多美子、宮川 保之、岩田 泉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは社会・理科コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

社会・理科コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説などを加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標（＝到達目標）

問題解決学習を中心とする社会・理科の2教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方（話術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。

また、このコースでは、問題解決学習の手法を中心に進める。実際の授業は2名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週・後期15週を以下のような授業計画で進める予定である。そして、社会・理科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業、映像等による授業解説、実技指導のポイントやコツの練習などを通して総合的に学修する。

前期 第1週：オリエンテーション

第2～8週：社会科に関する授業研究

第9～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

後期 第1週：オリエンテーション

第2～7週：社会科に関する授業研究

第8～14週：理科に関する授業研究

第15週：まとめ

評価

2教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各40点で評価を行う。それに授業への取り組み（関心・意欲）を各10点とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業前に教材について研究を深めておく。毎時30分

【事後学修】模擬授業の反省をし、改善点をまとめる。毎事後30分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省 「小学校学習指導要領解説 社会編」 東洋館出版社（平成20年度版）

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 理科編」 大日本図書（平成20年度版）

【参考図書】小学校の社会・理科の教科書・指導書等の教材

科目名	授業研究		
担当教員名	清水 玲子、宮野 周、山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

2年次に学んだ「教材研究」をさらに深め、授業づくりの要点を学修するために設定された科目で、小学校教諭免許状取得の選択科目の一つである。模擬授業など実践的な活動を仕組むために少人数で授業を展開する。ここでは、音楽・図工・体育コースの授業の進め方について解説する。

科目の概要

少人数で学習する体制づくりのために、国語、算数、社会・理科、音楽・図工・体育の4コースに分かれて授業を進める。受講生はいずれかのコースを選択して履修することになる。音楽・図工・体育コースでは、各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等による授業解説を加えながら総合的に学修することをめざしている。

学修目標

表現活動を共通項とする音楽・図工・体育の3教科に関する授業づくりの特徴や要点を理解するとともに、各々の教材研究の進め方やその手立てを具体的に学修することをねらいとする。特に、指導計画や学習指導案の立案・作成に関する知識の理解、模擬授業を実践できる指導技術の習得を目標とする。

内容

小学校の授業づくりについて、学習内容の中核となる教材研究を深めるだけでなく、授業の進め方や展開法、子どもとの接し方（話術、表情）、指導案や単元計画作成の理解などをより実践的に学ぶことを意図した科目である。また、このコースでは実技科目特有の技能や技術に関する指導ポイントやコツを共有化することを通して、受講生自身の技能レベルの向上もねらいとする。

実際の授業は3名の教員がオムニバス形式で担当し、前期15週および後期15週を次のような授業計画で進める予定である。そして、音楽・図工・体育科における各々の授業実践における指導技術、指導案作成、教材研究の深め方などを模擬授業や映像等をもとに理解するとともに、実技指導のポイントやコツについても実践的な練習を通して総合的に学修する。

前期 ・第1～5週 オリエンテーション、音楽科に関する授業研究 : 清水 ・第6～15週 図画工作科に関する授業研究、まとめ : 宮野

後期 ・第1～5週 オリエンテーション、音楽科に関する授業研究 : 清水 ・第6～15週 体育科に関する授業研究、まとめ : 山本

評価

3教科それぞれで実施される「課題作成・発表活動・レポート」などを各30点で評価を行う。それに授業への参加度（取組・関心・意欲）の10点を加えて総合的に評価を実施する。60点以上を合格とするが、合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の講読。プレゼン活動の準備と発表資料作成。

【事後学修】授業ノートおよび配付資料の整理。授業で紹介した推薦書の自主的講読。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

文部科学省 「小学校学習指導要領」東京書籍（平成20年度版）

【参考図書】

授業中に適宜、紹介する。

科目名	道徳教育		
担当教員名	大友 みどり、渋谷 治美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この科目は小学校教諭一種免許状の取得に必要な「教職に関する科目」の一つです。

授業では、まず人類の誕生に遡って「道徳とは何か」を確認します。ついで古今東西の先人たちの言葉から、道徳についての幾つかの典型的な考え方を学びます。それらを踏まえて、小学校の段階で子どもたちに身につけさせるべき道徳の内容を柔軟に体系的につかみます。そのうえで「学習指導要領」を理解します。後半で実際に授業を構想し模擬授業を行うなかで、「道徳の時間」における指導の仕方を学びます。

学修目標は、次の三つです。 そもそも人類にとって道徳とは何か、を理解する。 小学校における教科としての「道徳の時間」について理解し、構想をたてる。 発表を通じて、相互に検討を行い、道徳教育の具体的な方法を身につける。

内容

1	人類にとって道徳とは何か？（渋谷、大友）
2	孔子とイエスの黄金律は万能か？（渋谷）
3	カントの道徳思想は絵に描いた餅か？（渋谷）
4	明治の校長先生の指導方針に学ぶ（渋谷）
5	さいたま市「心を潤す四つのことば」から学ぶ（渋谷）
6	学習指導要領を理解する（大友）
7	学習指導要領を理解する（大友）
8	道徳の授業と資料分析（大友）
9	道徳の授業と資料分析（大友）
10	指導案の作成（大友）
11	指導案の作成（大友）
12	模擬授業（大友）
13	模擬授業（大友）
14	模擬授業（大友）
15	振り返り（対話）（大友）

評価

模擬授業の班評価40点、レポート40点、授業への参加度20点とし、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】『小学校学習指導要領解説 道徳編』に目を通しておくこと。特に、模擬授業の前には、授業以外に、グループ単位で指導案を完成させるほか、事前の練習と準備（90分ほど）が必要である。

【事後学修】模擬授業後には、受講者間での討議をふまえ、個々人がレポートをまとめ提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省『小学校学習指導要領』、文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

【資料】そのつど配布する。

【推薦書】田中智志・橋本美保〔監修〕松下良平〔編集〕『道徳教育論』一藝社、2014年

【参考図書】そのつど紹介する。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許取得の必修科目であり、保育内容と指導方法を学級経営と関連させて学ぶことで、幼稚園教育実習へと向かうための総まとめの科目という性格をもつ。

科目の概要

幼児期にふさわしい生活を展開するためには、どのような環境や保育内容が必要か、具体的な場面を想定しながら考え発表する機会をもち、保育の在り方を総合的に考える力を養うことを目的とする。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 幼稚園教育要領における領域の意味と関係性について理解する。
- ・ 幼児の実態に即した保育の展開を構想できる。
- ・ 保育内容やねらいに即した指導計画を作成し、実践するための力量を獲得する。

内容

1	保育内容とは何か (幼稚園の一日の生活)
2	幼稚園教育の基本・遊びを通しての総合的な指導
3	遊びと生活を通して学ぶ 3 歳児
4	遊びと生活を通して学ぶ 4 歳児
5	遊びと生活を通して学ぶ 5 歳児
6	発達に即した教材と指導の在り方
7	幼児の主体的な遊びを充実させる環境の構成
8	保育形態と教師の援助
9	長期の指導計画と短期の指導計画
10	指導計画作成の実際
11	グループごとの発表 1 (教材の工夫)
12	グループごとの発表 2 (指導の工夫)
13	学級経営と教師の役割
14	幼稚園の特色・教育方針 (様々な幼稚園の現状理解)
15	まとめ

評価

授業への取り組み30%、課題提出40%、まとめのレポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に提示する課題に関する資料検索、発表準備 (1時間)

【事後学修】授業ノートの整理・まとめ、提示する課題に関するレポート作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編「最新保育講座 保育内容総論」ミネルヴァ書房
岡上直子・高梨珪子「保育者論」光生館、文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（環境）		
担当教員名	宮崎 信子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼稚園教諭免許状、保育士資格取得のための必修科目。保育における「環境」の重要性を理解する。

科目の概要

乳幼児期の発達を踏まえ、保育における『環境』との豊かなかかわりを育むための、幼児の視点にたった指導内容と援助の在り方について学習する。

学修目標（＝到達目標）

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・乳幼児期の環境とのかかわりと、それに伴う諸側面の発達について理解する。
- ・保育実践における保育内容「環境」の在り方を理解する。

内容

1	幼児教育・保育における「環境」の概念
2	子どもの発達と環境
3	子どもと植物とのかかわり
4	子どもと生き物とのかかわり
5	子どもと自然現象とのかかわり
6	園外保育の実際
7	子どもと物とのかかわり
8	子どもと物とのかかわり
9	子どもと文字や記号とのかかわり
10	子どもと数量・図形とのかかわり
11	子どもと土・砂・水とのかかわり
12	子どもと日本の伝統文化・行事とのかかわり
13	領域「環境」と保育方法
14	領域「環境」と保育の実際
15	まとめ

評価

授業の参加度 10%、授業時の課題 60%、期末レポート 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】幼稚園教育要領・保育所保育指針「環境」を読み、授業内容との関連について理解したうえで授業に臨む。翌授業の演習に必要なものを各自準備する。

【事後学修】授業を振り返り、理解できたことや今後に生かせる内容などをレポートし、翌週提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリント配布

- 【参考図書】
- ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館
 - ・保育所保育指針 厚生労働省 フレーベル館

科目名	保育内容の指導法（人間関係）		
担当教員名	井上 宏子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得のための必修科目です。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の中の領域「人間関係」の指導・援助方法について学びます。

科目の概要

保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特質をふまえ、保育における人とのかかわりを育むための保育者の援助のあり方を、具体的な事例を通して学びます。

学修目標（＝到達目標）

- 領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。
- 乳幼児期の人間関係の発達を理解する。
- さまざまな場面における子どもの人間関係を知る。
- 人とのかかわりを援助する保育者の役割について考える。

内容

1	幼稚園教育の特質、保育所保育指針・幼稚園教育要領における5領域
2	領域「人間関係」のねらい、内容、内容の取扱い
3	乳児期の発達と人間関係
4	幼児期の発達と人間関係(幼児期前半)
5	幼児期の発達と人間関係(幼児期後半)
6	個と集団の育ち
7	遊びの中で育まれる人とかかわる力
8	人とのかかわりを育てる保育者の役割
9	子ども同士のいざこざとその援助(事例検討)
10	生活や遊びの中の人間関係 (事例検討)
11	生活や遊びの中の人間関係 (事例検討)
12	生活や遊びの中の人間関係 (事例検討)
13	集団の中で人とかかわる力を育てる保育実践
14	人とかかわる遊びを引き出す保育環境
15	まとめ

評価

授業参加度及び態度（20%）レポート（40%）筆記試験（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前には配布されたプリントを読み、自分なりの考えをもって授業に参加する。発表する場合は、その準備をしておく。

【事後学修】事例を通して学んだときは、子ども同士のかかわりや保育者の援助についてどのように受け止めたか、また、自分が保育者の立場だったらどう援助するかなどについて考えをまとめておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】幼稚園教育要領

【推薦書】【参考図書】授業の中で、図書の紹介や資料の配布を行います。

科目名	保育内容の指導法（言葉）		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

幼稚園教諭免許状資格取得のための必修科目であり，この科目を履修していることが幼稚園での実習を行うための必要条件となっている。

科目の概要

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の内容と指導法について学修する。子どもを受容し安心感を育てていくような言葉かけ、遊びの発展を促していく言葉かけ、自分の気持ちや考えを友だちに伝えたり、友だちの発言を聞いて分かっていく態度を育てる言葉かけといった具体的な保育援助の在り方を考えていく。また，絵本の読み聞かせと「おはなし会」の計画と実施に取り組む。

学修目標

子供の言葉を育てる者として，社会における言葉や自身の言葉遣いに関心をもつ。

幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される領域「言葉」の指導法について理解する。

絵本等の児童文化財について，教材研究と実践のスキルを養う。

内容	
1	ガイダンス～幼児教育の目的と領域「言葉」～
2	幼児教育の基本
3	領域「言葉」の内容の整理
4	乳幼児期の言葉の発達，「ブックスタート」の本を読む
5	絵本の読み方，選び方
6	絵本の読み聞かせの基本と「おはなし会」
7	読み聞かせの実際，「おはなし会」の計画
8	「おはなし会」の計画と練習
9	「おはなし会」の実施
10	「おはなし会」の実施
11	言葉にならない表現を受け止める
12	感情表現と言葉～内言と外言～
13	文字との出会い，「園だより」の作成
14	幼稚園・保育所・小学校の連携～「スタート・カリキュラム」について知る～
15	まとめ～乳幼児の言葉と保育者の役割～

評価

小レポート30%，実習や討論等への参加状況30%，最終的な論述レポート40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】演習を伴う内容については、事前の予習・準備が必要。

【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求めることがある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教育要領解説』（文部科学省，フレーベル館，205円）

【推薦書】『事例で学ぶ保育内容 領域言葉』（無藤 隆 監修，萌文書林，2,000円）

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	保育内容の指導法（音楽）		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

幼児期における音楽教育の必要性と大切さを理解した上で、保育現場での実際の音楽活動について学ぶことを目的とする。

科目の概要

童謡や子どもの歌をとりあげ、普段の保育で遊ぶ簡単なリズムあそびや、発表会・運動会などの行事で発表する簡単なリズムダンスへの発展の仕方などを修得し、導入法などを学ぶ。

また同時に童謡や子どもの歌と一緒にうたいながら演奏できる伴奏法も学び、保育者自身のピアノの技術の向上もめざす。音楽をいかに楽しく表現するか、その音楽を子どもにどのように指導していくかを勉強していく。

学修目標

個人個人の技量に合わせて最終的に伴奏でき、音楽あそびにおいては保育者が自分で考案し指導できるようになることを学修目標とする。

内容

この講義は、毎回童謡や子どもの歌に合わせて動いたり遊んだり、また課題曲を歌いながらピアノを弾く実技を伴うものである。

(1)歌いながら伴奏をする。

前半の60分は、ピアノの実技を中心に講義を行う。

音楽を、季節・行事・遊び・生活・その他のジャンルに分類する。それぞれのジャンルから、よく歌われる歌、知っている歌、新曲などから、毎回課題として3~4曲ずつ選曲し、個人の技量に合わせて編曲をして弾き、また子どもの発達段階に合わせての指導法を勉強する。

リズム・フレーズ・拍子など音楽分析

各自の技術に合わせた演奏と編曲

歌いながらの指導法

行事関係の曲

生活関連の曲

あそび関連の曲

(2)リズム遊びや動きなどを中心として動く。

後半30分は、手遊び・リズムあそび・リズムダンスを2~3曲覚える。

普段の保育でのリズムあそびやその創作

発表会や運動会を中心としたあそび・動き

歩くリズムの捉え方

走るリズムの捉え方

スキップのリズムの捉え方

流れるリズムの捉え方
縦乗りのリズムの捉え方

評価

毎回ごとの課題に対する発表(60%)と試験(30%)、通常の授業態度(10%)により評価を行い、60点を以上を合格とする。合格点に満たない場合は「再試験」を行う。

授業外学習

- 【事前予習】課題曲3曲の楽譜を読譜し練習する。
- 【事後学修】授業内で習ったことの整理。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

適宜、テキスト・プリント・CDを使用し紹介する。

推薦CD:

- ・しみずれいこのリズム・あそび&ダンス 大集合(キングレコード)
- ・年間とおして!毎日やくだつ!保育ベスト30あそび(キングレコード)など

科目名	生徒指導・進路指導		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、小学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目」に対応するものである。

小学校の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

科目の概要

生徒指導は、学校における教科指導と並んで学校教育の中心となるものである。しかし、生徒指導の本質や理念が一般的には十分に理解されているとは言えない。生徒指導の機能について正しく理解し指導できるよう、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生自らの小中学校における生徒指導の体験や課題意識を相互に意見交換し、児童生徒の生き方・在り方にかかわる指導ができるようにする。

学修目標

- ・生徒指導の意義や目的、内容、方法について理解を図りつつ、自らの児童観、教師観を構築していく。
- ・生徒指導上の諸問題について、グループごとに課題を設定し、その対応の仕方を具体的に考察する。
- ・小学校における進路指導の在り方について考察する。

内容

授業は教科書を使って行うが、講義形式だけでなく、自ら課題を見つけ、調査・検討し、発表するグループワークを行う。小学校における指導を意識した具体的な指導力について、体験的に学び合い、互いに高め合える授業をめざす。

1	1. 生徒指導の意義と目的
2	2. 生徒指導の領域・内容と課題
3	3. 生徒指導と教育課程との関連
4	4. 各教科・道徳・特別活動等の生徒指導に果たす役割
5	5. 生徒指導の組織と計画
6	6. 児童・生徒理解の意義と重要性
7	7. 児童・生徒理解の内容と方法
8	8. 児童・生徒理解の具体的な手だて
9	9. 生徒指導における集団指導の意義と方法
10	10. 生徒指導における集団指導の実際(1) 思いを伝えづらい雰囲気改善する指導法
11	11. 生徒指導における集団指導の実際(2) 子どもの気持ちをつかむ指導法
12	12. 進路指導の目的と内容
13	13. 小学校における進路指導
14	14. 学習のまとめ・進路指導の方法と指導計画
15	15. まとめ・進路相談実習

評価

試験60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

- 【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。
- 【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】江川?成編著 『生徒指導の理論と方法』 学芸図書
- 【参考図書】学校教育研究所編 『生徒指導の今日的課題』 学校教育研究所
新井邦男、住田正樹、岡崎友典編著 『改訂 生徒指導』 放送大学教育振興会
仙崎 武、野々村新、渡辺三枝子、菊池武剋編 『入門 生徒指導・相談』福村出版

科目名	教育相談		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

〔科目の性格〕

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

〔科目の概要〕

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解を欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。

〔学修目標〕

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容

- 第1回 学校教育と教育相談
- 第2回 乳児期・幼児期における子どもの問題
- 第3回 小学校における子どもの問題
- 第4回 中学校・高等学校における子どもの問題
- 第5回 発達障害の理解と支援
- 第6回 精神疾患の理解と支援
- 第7回 教育相談の理論
- 第8回 教育相談の技法
- 第9回 学級経営に生かす教育相談
- 第10回 学校で使えるアセスメント
- 第11回 保護者への理解と支援
- 第12回 校内及び関係機関との連携、カウンセリング模擬体験(1)
- 第13回 スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験(2)
- 第14回 まとめ、カウンセリング実習(1)身内の問題
- 第15回 まとめ、カウンセリング実習(2)将来の問題

評価

試験による評価60%、毎回の授業の振り返り、レポート課題、発言等の平常点の評価40%により評価する。総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安齊順子 編著 北樹出版

〔推薦書〕

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教育相談」教職教育講座第5巻 長谷川 栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	教育実習事前事後指導		
担当教員名	日出間 均、狩野 浩二、増田 吉史、山本 悟 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この授業は教職員免許法で定める小学校の教育実習に係わる事前事後の指導を行うことをねらいとしている。

科目の概要

教育実習の目的、進め方、教育実習へ臨む心構えをはじめ、実際の授業の進め方、指導案の作成の方法等について講義、演習を行う。また、教育実習後の発表、協議を行う。

学修目標（＝到達目標）

教員にかかわる法規について知る。

実習の意義と心構えについて学ぶ。

指導案の作成や授業を想定し模擬的に行うことができる

内容	
1	教育実習ガイダンス
2	教育関係法規
3	教育関係法規
4	教育課程、生徒指導
5	小学校学習指導要領
6	小学校学習指導要領
7	小学校学習指導要領
8	指導案を書く意義と書き方の基本
9	実習を終えて（4年生の話）
10	教育実習に向けて
11	教育実習に向けて
12	事例研究
13	事例研究
14	教育実習事後指導
15	教育実習事後指導

評価

事前指導におけるレポート（2割）、指導案等の取り組み状況（3割）、事後指導における研究協議の内容、自己評価の内容（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】課題について予習をしてくる。次週で扱う範囲の予習も含め、1時間程度の予習が必要である。

【事後学修】学修について復習課題を行う。事前予習にて理解不足の点、授業にて明らかになった課題等について、整理し、まとめを行う。1時間程度の事後学習が必要となる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領』』（文部科学省）、『小学校学習指導要領解説総則編』（文部科学省）。その他、授業時に適宜、資料を配布する。

【推薦書】授業にて指示する。

【参考図書】授業にて指示する。

科目名	教育基本実習		
担当教員名	日出間 均、狩野 浩二、吉川 知夫、齋藤 忍 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

3年時に通年で1単位の必修科目である。

科目の概要

地域の小学校（特に、新座市、朝霞市、志木市、和光市ほか、東京都東久留米市、清瀬市等）を中心に、小学校での授業支援ほかボランティア活動を行い、学校現場に出て行う実習である。

学修目標（=到達目標）

年間20日を目安とし、配当学校の実情に合わせてボランティアを行い、学校現場の実態を知り応用実習の心構えを持つ。

内容

年間を通じて配当学校の実情に合わせて 20日を目安にボランティア活動を行う。その際、2年生とチームを組みリーダーとして運営、連絡を担当する。

評価

配当学校の実情により活動内容が異なるため、実習日誌の記録、および学校からの情報をもとに判断する。

授業外学習

【事前予習】連絡調整の有無。

【事後学修】自習日誌の記録。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【推薦書】必要に応じて指示する。

【参考図書】必要に応じて指示する。

科目名	教育応用実習		
担当教員名	山本 悟、狩野 浩二、吉川 知夫、齋藤 忍 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

卒業要件に関わる必修科目である。また小学校の教員免許を取得するためにも必要である。4週間の小学校現場での実習を行う。

科目の概要

4年次の5～6月ごろに、小学校（特に、新座市、朝霞市、和光市、志木市を中心とする埼玉県および東京都などの地域を中心とする）での実習を行う。その際、学生という立場ではあるが、教員の一員としての自覚を持ち、小学生の前に立つことになる。指導教員の授業参観だけでなく、学級担任として清掃、給食のような生活指導や学習補助、および実際の授業も体験する。学校長はじめ指導教員からの講和や指導案の作成など教育現場でしかできない学びをする。

学修目標（＝到達目標）

小学校の教員としての自覚を持ち、4週間という長期の実習期間を健康に行うことができる。

内容

配属校によって違いがあるが、概ね次のような流れになる。第1週では学校現場の様子に慣れる。特に、校長より教務など学校組織における様々な役割に関する講話を受け学びを深めるとともに、配属学級の児童を知り、授業を参観する。第2週以降は配属された学級担任の補助として、積極的に学級指導にかかわる。授業の担当などが示され、準備を進めることになる。第3週も同様な活動を進め、実際に指導案を書き授業を体験する。第4週では研究授業に向けて準備をし、実際に研究授業を行う。

評価

出勤状況、教師としての実務能力、教材研究など授業実践に関わる能力、児童に対する態度などについて、小学校現場で指導に当たった実習校の評価および実習日誌等の評価を加えて総合的に判断する。

授業外学習

【事前予習】実習のための準備

【事後学修】実習の振り返り

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

必要に応じて指示する。

科目名	幼稚園教育実習(事前・事後指導を含む)		
担当教員名	岡上 直子、狩野 浩二、吉川 知夫、齋藤 忍 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(J)-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、小学校教育実習をあわせて受講する者が履修対象である。

科目の概要

幼稚園教育の基本、幼児の発達の特性、教育実習を行う際の心構え等について学び、他の幼稚園教育専門科目で学んだ内容と、実習園での実習内容とを結合させて教育実習の成果をあげ、教職への認識を確かなものとする。

学修目標(=到達目標)

- ・幼稚園教育の具体的な指導内容・方法について理解する
- ・幼稚園教諭として必要な保育観、知識・技能などを学び、指導力を身に付ける
- ・幼稚園教育と小学校教育の接続について理解する

内容

(1) 事前指導

幼稚園教育の基本となる考え方について学び、課題意識をもって実習に臨めるよう、幼稚園教育の実際について具体的なイメージを広げる。

実習の目的・目標、内容等にかかわるオリエンテーション

幼児の発達の特性理解、観察・記録の方法と実際

幼稚園の教育課程・指導計画の考え方、指導案の作成、

保育内容(指導)と評価、日誌の書き方

実習園におけるオリエンテーション(園長、実習担当の教職員等による)

(2) 総合実習

小学校教諭1種免許状を取得することを前提条件としているので、実習期間は、1週間である。

参加観察実習と責任実習を含む総合実習を連続して行う。

- ・実習日誌を毎日書き、実習園の担当教諭等から指導を受ける。
- ・幼児集団を指導する責任実習(部分・1回)を行う。
- ・実習に当たっては、学級や幼児の実態に即した指導案を作成し、実習園の担当教諭等から指導を受けることとする。

実習園は原則として学校指定の園とする。

(3) 事後指導

学内での実習報告や実習日誌を手がかりとして、幼稚園教育に関する理解を深める。

幼稚園教育の独自性

幼稚園における学びの評価

保育における教師の役割

評価

実習指導園から実習の取り組み状況等に関する評価を受け、それを参考に実習担当教員が評価する。

実習日誌、事前事後指導における取り組み状況や提出物も評価対象となる。

事前事後指導中の取り組み態度及び実習日誌等の提出物を50%、教育実習の勤務状況、実習の取り組み姿勢及び実習園の成績評価等を50%とし、総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】実習先の教育方針、特性の理解。提示する課題に関する事前調査、情報検索、発表準備（1時間）

【事後学修】学修のまとめとして提示する課題に関するレポートの作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】幼少年教育研究所編 「新版 遊びの指導」 同文書院

全国幼児教育研究協会編 「4歳児の遊びアイデア集」 チャイルド

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する

科目名	教職実践演習（幼・小）		
担当教員名	山本 悟、宮川 保之、狩野 浩二、増田 吉史 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「教職実践演習」は、教職員免許法に定められた必修科目である。教職課程の他の授業科目の履修や学校ボランティア等の様々な活動を通じて、身に付けた資質能力が教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて省察する。このことによって、教員になる上で、何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて知識や技能等を補い、教職生活をより円滑にスタートできるようにする科目である。

科目の概要

学校教育の具体的な課題や教育の最新事情と学校が抱える課題を取り上げ、集団討議法や事例研究等を活用しながら授業を展開し、教師としての考え方及び自己のあり方を考察し、自己の考え方を文章、口頭、討論などで表していく活動に取り組ませる。

学修目標（＝到達目標）

- ・教職の意義や教員の役割、職務内容、子供に対する責務等を理解し、遂行できるようになる。
- ・教員組織における役割分担や教職員が協力して校務運営に携わる方法を理解し、自己発揮する資質を高める。
- ・個々の子供の特性や状況を把握し、学級集団を維持し機能を発揮する手立てを身につける。
- ・教員としての表現力や授業力、子どもの反応を活かした授業づくり等、指導方法の資質を高める。

内容

教職実践演習は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる。よって、授業は、講義・演習を通じて、理論と実践を有機的に統合できるようワークショップ形式等の実践的な形式で展開する（外部講師の専門的指導も含める）。そして、教職生活をより円滑にスタートできるように、教職に対する使命感や責任感、教育的愛情等や、対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営、教科・保育内容等の指導力に関する事項について、自己省察し、必要な資質・能力をさらに高めていく。

1	(1) 教職実践演習のねらいと内容の理解 (2) 教育応用実習での学びと省察 山本 他
2	人権教育について 山本、狩野、増田
3	人権教育について 山本、狩野、増田
4	授業研究、教材研究、指導法特講（受講者の模擬授業と振り返り）山本、富山
5	授業研究、教材研究、指導法特講（新しい指導法と授業づくりを学ぶ）外部講師、山本、富山
6	教員としてのキャリア教育 山本、狩野、増田、宮川
7	保健安全指導について（アレルギー問題、アフィアキョク）狩野、山本、増田
8	学校行事と安全指導について（災害、不審者対応、他）日出間、増田
9	学級経営、生徒指導、保護者対応（地域社会を含む）について 日出間、増田
10	教師に求められる資質・能力と教職の再考（外部講師の予定）狩野、増田、宮川
11	最新の教育事情と学校の実情を考察（「21世紀型学力」とアクティブラーニング）宮川、狩野、山本
12	教育の最新事情と学校の実情を考察（特別支援教育のあり方と最新情報）岩井、吉川
13	教育の最新事情と学校の教育の省察（幼小連携と英語教育の実際と今後の方向性）岡上、松岡

14	学習指導の評価と評定および授業改善の方策に向けて 狩野、増田、山本
15	まとめ「子供観や教育観などについて、新しい教育情報を踏まえて論述」山本、狩野、増田

評価

授業への参加度(取組、関心意欲、態度)：40点、教育応用実習の振り返り(小レポート)：15点、小学校公開研究会参加レポート：15点、最終のレポートや論作等：30点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前時に事前課題を提示する。課題に関連した資料収集し事前学習を進める。

【事後学修】毎回の講義記録をノート等に整理するとともに、課題に指定した小レポートを作成し、提出する。大学周辺の小学校で開催される公開研究会に参加し、学びを深める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】無

【推薦書】佐々木司・三山緑編著『これからの学校教育と教師』(ミネルバ書房)

【参考図書】各回で参考となる資料の配布及び参考図書を提示する。

科目名	学校関係法規特別講義		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、児童教育学科の「専門科目」の「教育理論及び実践の応用に関する科目」であり、「選択科目となっている。

科目の概要

この科目は、1年次の「学校関係法規」の学修を踏まえている。

さらに、学校現場で実際に行われている学校管理・学校運営や教育指導等の実際の中で、どのような法律や規則が、どのように関わっているのかを、具体的な事例を通して追究していく。

学修目標（＝到達目標）

- 1 学校教育は、多くの法律・規則等を基盤にして成り立っていること・運営されていることなどを、具体的に理解する。
- 2 学修を通して、学校教育に関して法規に基づいた自分の考えや意見を持ち、学校教育に対する自己の視野をさらに広げる。

内容

1	ガイダンス。 法治国家、憲法・教育基本法及び教育関係法規等の関連について
2	教育の目的、義務教育の目標等に関する法規
3	児童生徒の就学等に関する法規
4	児童生徒の保健・安全等に関する法規
5	教育課程等に関する法規
6	学級編制等に関する法規
7	学校管理等に関する法規
8	学校運営等に関する法規
9	学校の組織・運営等に関する法規
10	教職員の身分等に関する法規。 教育行政等に関わる法規
11	教職員の服務等に関する法規
12	教員の研修等に関する法規
13	教員免許等に関わる法規
14	教員の勤務条件等に関わる法規
15	まとめ

評価

授業への参加度（取り組み）30%、小まとめ・小テスト等20%、筆記試験50%などに

より総合的に評価するものとし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】 使用する『必携 学校小六法』を活用し、主要法規等に目を通しておくと共に、インデックスなどを付け、引きやすくなるようにしておく。
- 【事後学修】 授業で使用したノート・資料などや学修した法令などを、再度見直したり書き出したりするなどの取り組みをする。授業関連の事例問題や過去出題問題などに取り組む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】 『必携 学校小六法』 若井 彌一 監修 共同出版
- 【推薦書】 「図解・表解 教育法規」 坂田 仰 ・ 河内 祥子 外 共著 教育開発研究所
- 【参考図書】 「教育法規便覧」 窪田 眞二 小川 友次 著 学陽書房

科目名	表現活動概論		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つで、選択科目です。
3年生を対象とし、これまでに「表現活動」を選択した学生も、まだ経験していない学生も歓迎します。

科目の概要

朗読・歌・身体表現からなる作品に取り組みます。クラス内で総合表現の作品を創り上げ、発表の機会を持つことも目指します。

表現活動を履修したことのある学生は、今度は指導する立場になったことをイメージしながら、さらに作品と表現を研究することができます。

学修目標 (= 到達目標)

教師を目指す学生にとって「声」と「表現力」は大切です。

- ・全身を使って、豊かで表情のある声を自分の中から引き出すこと
- ・作品を味わい、イメージをふくらませていく過程を体験すること
- ・仲間と考えをぶつけ合い、磨き合う関係を築くこと
- ・練習を通して得たものを人に伝える喜びを知ること

これがこの講座の目標です。

内容	
1	作品と出会う
2	歌の練習を中心に 1 脱力
3	朗読の練習を中心に 1 呼吸法
4	重唱の練習を中心に 1 ハーモニーの愉しみ
5	歌の練習を中心に 2 作品解釈
6	朗読の練習を中心に 2 声の表情・表現
7	重唱の練習を中心に 2 互いに聴くこと
8	身体表現を考える 1 身体の意識
9	身体表現を考える 2 構成・他者との関わり
10	表現活動の指導法を考える 1 言葉の重要性
11	表現活動の指導法を考える 2 見ること・聴くこと
12	教師の表現力
13	共に学ぶ
14	発表
15	まとめ

教材解釈30% / 表現力30% / 試験（レポート）40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】身の回りの自然や、日頃接している人に関心を持ち、よく観察すること。

【事後学修】本を読み、音楽などの文化に触れる機会をできるだけ多く持つこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で配布します。

【推薦書】斎藤喜博『授業』（国土社）、竹内敏晴『声が生まれる 聞く力・話す力』（中公新書）

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』（教育出版）

その他必要に応じて日本地図、植物・動物・昆虫図鑑

科目名	学級経営と教科指導		
担当教員名	小城 正重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学級は、児童にとって所属することを拒否できない運命集団であり、一日の大半を過ごす場である。学級担任として、各々の児童が学校生活に展望が持てる指導のあり方を考察する。学級経営の基盤は教科の指導においてない。現場の教師が作成した具体的な資料をもとに、学校現場に密着した実践的な考察をする。担任として、自信を持って児童や保護者に接することができるようにしていく。児童の身になり共感的に考え、共に生きようとする人間的な教員の姿を求める。問題解決力を身につけ、多様化する子どもや保護者達に適切に対応できる力を育成する。

内容

1	学校教育目標の実現を目指し学級指導目標実現のための具体的方策の立案。教育実習について
2	学級教育目標設定の手順の例。教育実習生として心掛けること、気をつけること
3	学級経営案の作成 (学級目標、学級経営方針、学級の実態把握)
4	学級経営の計画 (教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の指導)
5	学級経営の計画 (生徒指導、健康安全指導、教室環境づくり、家庭との連携)
6	学級経営の計画 (学級事務の処理、学級経営の評価、参加したくなる授業参観・懇談会)
7	各種表簿、観察を通じて、児童生徒の健全育成や学校生活の充実を図る。
8	学力の特徴や傾向、得意教科や不得意教科、つまずきなど実態の把握方法
9	教室の物的環境の整備と管理、毎日の生活や学習活動のよりよい環境構成
10	学習評価、諸表簿作成などの事務処理の実際
11	学級経営に関する保護者への通知、学級通信や懇談会等での連携の方法
12	学級の実態のとらえ方
13	学級集団の特性や傾向をつかむ (さまざまな問題への対処の仕方)
14	家庭および地域の様子の把握
15	振り返りとまとめ

評価

提出物 (20%)、小テスト (30%)、試験 (30%)、学習態度・積極性・発言等 (20%) によって総合的に評価する。
60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】指定した教科書を事前に読んでおくこと。
- 【事後学修】授業で学んだことを整理し、理解を深めておくこと。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】

著者名 小城 まさえ

書名 クラスづくり12か月

出版社名 学研

【推薦書】

なし

科目名	教職応用演習		
担当教員名	岡上 直子、吉川 知夫、日出間 均、齋藤 忍 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教育職員免許法に基づき、児童教育学科の専門科目」の内「教育の理論及び実践の応用に関する科目として開設されます。

科目の概要

4年生で履修する「教育応用実習」を効果的に実践できるよう、教職に就くための資質・能力を伸ばし、即戦力として活躍できる教員となるための基礎を身に付ける。このため、これからの社会で求められる人材像を踏まえた学校教育を展開する方途や、学校における諸課題への的確な対応方策等について学修する。また、教員として社会からの尊敬・信頼を受け、幼児・児童の思考力・判断力や表現力等を育成する実践的指導力を身に付ける。さらに、困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する実践的な指導力を身に付ける。また、教育の最新事情や教育仮題の解決を意図した演習を行い、各自が児童観や指導観、教育観を明確にしていく。

学修目標 (= 到達目標)

教科指導、生徒指導、学級経営等の職務を的確に実践できる力を身に付ける。学力向上、豊かな心を育成するための応用力を身に付ける。いじめ・暴力行為・不登校等生徒指導上の諸課題を早期に把握し、警察等の関係機関と連携するなどして、的確に対応できる指導力を身に付ける。場自分の考えを文章や言葉などで表現したり、他者と巧くコミュニケーションしたりできる表現力等を高める。

内容

学校ボランティア・インターンシップ等の円滑な実施と省察を行うために、第2回目と第13回目に、1から3年生まで合同で学習指導補助等の計画立案とその確認や省察を行う。他の回においては、下記回毎の教育課題の背景や解決策を見出す作業を行う。その際には、学校体験によって得た知識や技能を活かし、学習指導や生徒指導の実践的な指導力を高める演習(問題解決討議や事例研究)を行う。

1	学習指導要領「総則」の明示された事項と学校教育の実情(学習指導補助等の経験を活かして)
2	学級経営の実際(学級集団の形成、規範意識の醸成、学級の組織と役割意識の向上)
3	学校ボランティア・インターンシップ等の立案と学校との調整に関する協議
4	学級経営上の課題とその解決(日常生活や学習への適応、健康・安全意識の向上)
5	特別な支援を必要とする幼児・児童の理解と配慮の実際(個別の教育支療計画)
6	学校問題の事例とその解決方策(学校・教員への信頼と教育効果を高める方策)
7	豊かな人間関係の育成と個性や社会的資質を高める教育活動例(生活習慣の確立)
8	災害安全・生活安全・交通安全に係る教育活動とその実際(防災教育や犯罪被害防止等の対策)
9	非社会的な問題行動の未然防止と課題解決の実際(不登校、引きこもり等の予防と対応)
10	反社会的な問題行動の未然防止と課題解決への取組み例(いじめ、暴力等の予防と対処)
11	最新の教育事情と学校の実情1(学力調査等の結果を活かす取り組みの創造)
12	最新の教育事情と学校の実情2(「21世紀型学力」と教育活動の工夫)
13	学校ボランティア・インターンシップ等の取組みと省察(次年度に繋げるための方策の検討)

14	最新の教育事情と学校の実情3（「ESD（持続発展教育）」と教育活動の工夫）
15	実践的指導力を高める上での自己課題と今後の取組みについて(小論文作成)

評価

事前課題及び事後課題<小レポート>（60点）。最終試験(40点)を総合し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】回ごとに事前課題を提示するので、情報を収集したり、学校ボランティア等で得た知見を取り纏め、小レポートを作成し提出する。この小レポートを元に、授業で集団討議法等を行う。

【事後学修】授業での学習内容や集団討議法によって得た知見を小レポートに纏める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『小学校学習指導要領』（平成20年3月文部科学省告示）、 『生徒指導提要』（平成22年3月文部科学省刊）

【推薦書】 栗山和弘『授業の心理学』（福村出版）

【参考図書】 各回で取上げる課題に即した資料・図書等を提示する。

科目名	介護等体験事前事後指導		
担当教員名	吉川 知夫、狩野 浩二、齋藤 忍、岩井 雄一 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

義務教育学校（小学校・中学校）の教員になるために必要となる「介護等体験」について、事前指導と事後指導を行う科目です。集中欄で登録し、4月～5月にかけての時期に昼休みや5時限目などを活用して指導します。

介護等体験で体験する「福祉施設体験5日間」と、「特別支援学校体験2日間」について、先輩たちが経験した話を聞いたり、福祉の専門性、障害児教育の専門性について、各専門の先生方から話を聞いたりし、介護等体験が実り多いものになるよう勉強します。

高齢者福祉や児童福祉、障害者福祉など、さまざまな福祉施設での体験を通して、福祉の心を養います。また、特別支援学校での体験を通して、肢体不自由児、知的障害児、視覚障害児の他、重複障害児など、心身に障害のある子どもたちについての理解を深めます。

内容

以下の内容を学習します。

- 事前指導、社会福祉施設及び、特別支援学校についての学修
- 介護等体験（福祉施設5日間、特別支援学校2日間）7日間
- 事後指導、体験ノートの執筆と提出

それぞれ、4月のガイダンスにおいて講義日程、体験機関、体験場所等について説明します。

教職支援課（教職課程センター）の掲示等をよくみておいてください。

評価

事前事後指導における受講態度（2割）、体験への参加（3割）、事後報告書の内容（5割）を総合して、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を理解するとともに、疑問点を事前指導中に解決します。

【事後学修】体験終了後に、振り返りのレポートを作成し、教職支援課に提出します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

次のテキストを使用します。各自購入し、事前指導に参加してください。

増田雅暢 執筆代表 浦野正男・櫛田匠・磯彰格・森好明 著『第2版よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
出版部

全国特別支援学校長会編著『介護等体験ガイドブック フィリア [インクルーシブ教育システム版]』ジース教育新社

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

21世紀を迎えて、教育環境の変化、特に情報通信ネットワーク、デジタル機器などマルチメディアの発達と普及は目覚ましく、教育現場におけるメディア環境を一変させようとしている。この変化は、単に新しいメディアが視聴覚教育に加わるというものではなく、メディアの役割のみならず、教育そのものの変革を迫っている。メディアの発達は、教育に強い影響を及ぼすのみならず、新たな教育課題を発生させる。その最大の課題は、これまで学校、家庭、社会といった子どもの実体験的空間の中で考えられてきた教育についての考え方の修正である。教師として、メディアそのものの理解を求めるメディア・リテラシーの習得が必要不可欠である。

ICTを利用して問題解決できるようになること。メディア・リテラシーを身につけること。

内容

1	情報とは何か (情報研究の歴史)
2	情報概念 (情報の5つの特性)
3	コミュニケーションと教育メディア (文字・ことば・文章、情報のデジタル化)
4	情報化の進展と情報教育
5	情報教育の考え方 (学校教育における位置づけ)
6	情報教育の目標 (3本柱)
7	小学校の各教科における情報教育
8	学校教育における視聴覚メディアの活用
9	インターネットとマルチメディアの教育利用
10	メディア・リテラシーとは
11	子どもの学習活動と情報教育の実践 (ICT活用能力)
12	情報モラルと情報セキュリティ
13	課題作成 (プレゼンテーション教材)
14	課題作成 (プレゼンテーション教材)
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価 (30%)、課題レポートに対する評価 (30%)、テスト (30%)、授業への参加度 (10%) を総合して評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文部科学省「教育の情報化に関する手引き」をダウンロードして読んでおくこと

【事後学修】教員のICT活用指導力のチェックリスト (小学校版) をチェックすること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず。毎回の授業において、印刷資料を配布する。

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	井口 磯夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は教育職員免許法施行規則に定める科目区分の「教科又は教職に関する科目」の中の選択科目である。

児童は理科が大好きである。しかし現場の教師に理科実験を敬遠する傾向が見られる。そこで、身近な道具を使って子どもたちでもできる実験を工夫・開発し、実際に体験することを通して、理科の楽しさを実感することをねらいとする。

理科の4分野（物理，化学，生物学，地学）に関して，小学校理科で扱う内容に限定せず，理論的な裏づけや根拠を理解するということより，楽しいと思われるテーマに取り組んでみる。

内容

1	リニアモーターカーを教室に走らせよう（電流の働きを調べる）
2	動くおもちゃを工夫しよう。（おもりの働き）
3	ペットボトルで水ロケットを作ろう
4	音や光の実験箱（物に光を当てたり，物で音を出したりしてみよう）
5	焚き火の名人（原始人の火おこし術から，木がよく燃える仕組みを考えよう）
6	物の溶け方（きれいな結晶を作ろう）
7	空気鉄砲や水鉄砲を作ってみよう
8	ガラスビーズで顕微鏡を作ろう（身近な微生物）
9	交流の電気を使ってパンを作ろう（電流の熱作用）
10	備長炭で電池を作ろう（いろいろな電池をつくろう）
11	波の伝わり方（縦波、横波）
12	高いビルほど激しく揺れて危険だ
13	川はどうして蛇行するのか（大地のつくりとでき方）
14	星の動きを確かめよう（手作りプラネタリウム）
15	まとめ

評価

授業中に行う課題に対する評価（30%）、課題レポートに対する評価（30%）、テスト（30%）、授業への参加度（10%）を総合して評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】演習科目なので特に予習を必要としない

【事後学修】演習したことから、身の回りの事象に注意を向けて観察すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】資料を適宜配布する

科目名	学芸総合演習		
担当教員名	小城 正重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教師としての指導力を身につけ、自信をもって児童の前に立つことができるようにするために、多様な指導方法を学ぶ。

科目の概要

- ・教育実習や学校現場で、学生たちが戸惑っている「子どもを引き付ける方法」について、歌唱教材や音読教材、手遊び歌やゲーム、生活科や図画工作科で使える玩具づくりを通して自信と指導力をつけていく。
- ・ルーシーモンゴメリ著「赤毛のアン」に書かれているアンの言葉から、豊かな感性や想像力、生き抜く力や人を引き付ける言葉について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

反演習を通して、学生は自信をもって児童と向き合い、子どもたちを引き付ける力を確実に習得する。

内容

1	子どもを引き付ける話術、話の聴き方、学級づくりで大事なこと
2	小学1年生のための音読指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（夢）
3	小学1年生のための歌唱指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（想像）
4	小学1年生の生活科玩具教材つくりと遊び方の工夫、ことば遊び
5	小学1年生の図画工作科教材づくり、発表と鑑賞、ことば遊び
6	小学2年生のための音読指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（友情）
7	小学2年生のための歌唱指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（愛情）
8	小学2年生の生活科の玩具教材づくりと遊び方の工夫、ことば遊び
9	小学2年生の図画工作科教材づくり、発表と鑑賞、ことば遊び
10	集団遊びで気を付けること、楽しさの陰にある危機、すぐ踊れるフォークダンスの指導
11	小学3年生のための音読指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（人生）
12	小学3年生のための歌唱指導、楽しいゲーム指導、アンから学ぶ言葉（希望）
13	小学3年生の図画工作科教材づくり、発表と鑑賞、ことば遊び
14	グループごとの模擬授業、成果と課題を見つけ、今後につなげる
15	まとめ

評価

授業への取り組み30%、学習態度・積極性・発言30%、提出物10%、試験30%によって総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次週に扱う箇所の基本的な用語を調べておく。また音読教材は読む練習をしておく。

【事後学修】授業で学んだことを整理し、理解を深めておく

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

なし 必要に応じて、プリント配布

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備（毎週、2時間程度）。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、幼稚園の保育参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式で進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4 年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3 年の演習 (ゼミ) は 4 年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、4 年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究演習		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、児童教育学科の大学における学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味・関心をもつ研究分野について探求するプロセスを身につけることをねらいとしている。3年の演習 (ゼミ) は4年次の卒業研究に連動するので、各指導教員の研究分野を理解しておく必要がある。

科目の概要

各自の興味・関心のある研究分野から、問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方など学び理解する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究の進め方やテーマの持ち方に関する方法論を理解し、これに基づき4年次の卒業研究のテーマを具現化することができる。

内容

演習 (ゼミ) では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を具体的に模索するプロセスを学ぶ活動を展開する。授業は少人数の討論形式を進めることを基本とする。担当教員の専門分野をもとに、学生が自由にゼミを選択する形式にしている。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みにむけて、論文作成の概要理解と方法論の基礎を学ぶことを中心に授業を実施する。

各自が興味・関心のあるテーマを決め、発表、質疑応答、討論を行い、互いのテーマを深めあう。

担当教員からは、論文作成の手続きや文章作成のポイントを理解する資料を提示する。

後期には、小学校の授業参観など学外授業の機会も設けることがある。卒業研究のテーマ選択及び決定に向けて以下のような活動を展開する。

各自の興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行う。

調査用紙の作成など研究を進める準備に取りかかる。その過程をゼミの中で発表し、研究・調査・分析・考察に関する手法などを共有する。

評価

研究テーマに取り組む姿勢とその成果が発表やレポート等に現れていることを評価対象とする。具体的には、発表内容及び提出物の評価（60点）、担当教員や仲間のゼミ生と協調しながら積極的に取り組む姿勢（40点）という配点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】前期には、文献検索、手法の検討、報告の準備等(毎週、1時間程度)。

後期には、各自のテーマに合わせた研究、調査を進め、報告準備(毎週、2時間程度)。

【事後学修】質疑応答の内容、各教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】その都度、推薦して提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	山本 悟		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	松岡 敬明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見直しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮川 保之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 忍		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 児童教育学科		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童教育学科の大学における学びの総まとめとして 3年からの演習に引き続き自らの興味・関心 を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、 整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。他の受講生からの批評や意見をもらったり、担当教員からの指導を受けたりしながら研究を進めていく。9月に途中経過報告。11月に第一次原稿提出、12月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

学修目標 (= 到達目標)

自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめる。

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめることにある。

研究を進める過程では、卒業研究ゼミの他の受講者と途中経過を報告し合い、進度の確認や研究内容研究手法の理解共有を図り、進める。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持つことを目指す。発表や質疑 応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、教育実習やこれまで大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

主な取り組み内容

- ・ テーマ (研究題目) の決定
- ・ 先行研究の収集
- ・ 各種調査の計画実施 (アンケート調査、聞き取り調査、現地調査等)
- ・ 作品や模型などの設計、制作
- ・ 教育実践への活用の考察
- ・ 研究全体の考察を考え、内容の決定
- ・ 研究論文中の図表の作成及び論文の執筆
- ・ 卒業論文の全体的形式を整える。

評価

卒業研究 (提出された卒業論文) (70点) を評価対象とし、特に学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢 (30点) などを含めて総合的に判断する。 60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】文献にあたり、研究を深める。

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】その都度必要に応じて指示する。

【参考図書】その都度必要に応じて指示する。